

さとねりとかがやき あらすじ

ひとは「自分」とは何者かを知りたがる。家系図をさかのぼり、ヒストリーにその答えを求めたりする。しかし実は「自分」の中にこそ、ヒストリーは詰まっている。自分より先に生きた人たちのエッセンスは、自覚せずとも持って生まれてくる。

主人公は児童養護施設の出身である。阪神淡路大震災を経験し、その身に降りかかる出来事を受け入れるほかないことを漠然と理解している。時の流れに逆らわないように平凡に生きていても、出会った人々の生きる姿勢に影響を受けながら、知らぬ間に先人たちのエッセンスを引き継ぎ成長しつつ人生を歩んでゆく。

「さとねり」と「かがやき」は主人公のエッセンスである。

物語の終わりに、彼は「さとねり」の香りを嗅いでいる。